



加藤久美さん  
和歌山大学観光学部教授。オオカミ天井絵の復元に力を尽くしました。

人と土地とのつながりを、今回はアートで表現していただきました。観光とは「光を観る」と書きます。この地域で再び産業をおこそうという人もまた、この地の光であると考えます。オオカミ絵の復元・奉納から3年、プロジェクトの集大成となった今回の活動が、次の道をつくってくれると感じています。

山津見神社のオオカミ天井絵の復元プロジェクトに大きく貢献した和歌山大学の加藤久美教授、消失前の旧天井絵の撮影者サイモン・ワーンさんらが、オーストラリアの現代舞踊家、パーカッションと共に来村。人々が自然と共に生きる音や風景をテーマに芸術表現を試み、村民と交流しました。また、それらの映像記録が、いわき市立美術館で上映された他、山津見神社では、詩人の和合亮一さんとの共演を村民に公開しました。

## 芸術表現 × 飯舘村

村人の営みを物語る  
パフォーマンス



上は山津見神社での公開の様子。和合さんの詩の朗読とダンス、パーカッションの共演に、観客が引き込まれました。左は9月に開所予定の「やすらぎ工房」飯舘工場で、同工房の二瓶貴大さん(写真中央)を交えての打ち合わせ。二瓶さんは、工具を打ち付ける音で共演しました。



「ふくしま未来神楽」の一つ「狼」の詩は、山津見神社のオオカミ絵からインスピレーションを受けて創作したものです。ここで朗読できたことが、とてもうれしいです。この地で本気でやっつけようという大人達がいること、震災からの日々で感じたことを、ためらうことなく子ども達に伝えていきたいと思っています。



和合亮一さん  
詩人であり高校教諭。多彩な活動で地域の復興にも貢献しています。

世界的な舞踊家のジャン・ベーカーフィンチさんと、パーカッションの各地をめぐり、即興の創作を生み出しました。濱田石材工業の工場、阿部勝男さん(佐須)のヒマワリ畑、山田猛史さん(関根・松塚)の放牧地などで、村民の協力を得ながらアートジャーニー(芸術表現を行いつつ旅)を展開。力を取り戻していく人々の営みと自然の風景に、芸術表現を重ねました。

## 東大むら塾 × 農業委員会

遊休農地で始めよう  
交流の種まき



「東大むら塾」の学生(前列)と農業委員会の皆さん、活動を見学していた方も一緒に、記念撮影。後方の農地にそばの種をまきました。

「東大むら塾」は、東京大学のサークルです。地域おこしや農業体験に興味のある学生が集まり、千葉県富津市などで、農作物の生産やブランド化を行い、地域との協働に取り組んでいます。

その活動範囲を広げたいと今年からスタートした飯舘村でのプロジェクト。学生達は「新たな村の魅力を見つけ、その魅力アップに貢献したい」「学生が本気で関わることで力になれるらうれしい」と、汗を光らせて話していました。

この活動を、村の農業委員会がバックアップしています。1年目の今年には、菅野啓一会長の農地を活動拠点に、そばの栽培を行うことになりました。打ち合わせを重ねて迎えた当日は、電牧の設置や種まき、トラクターでの耕うんなどを、農業委員が手ほどき。学生達は、菅野会長宅に宿泊し、交流を深めながら、今後の活動について、アイデアを語り合いました。



菅野啓一さん  
飯舘村農業委員会会長。比曾地区で、花き栽培を再開しています。

村では、これから農地をどうやって守っていくかが、一番の課題になっています。地域ごとに基盤整備などを行っていますが、それまでの管理として、遊休地をなくしていきけるよう、農業委員会もがんばっています。「村に来てみたい」と思ってくれたこと、東大生の「本気」を大切にしたいですね。

「東大むら塾」には、さまざまな学部が来ています。地域の将来について、地域の人と一緒に考え、一緒に活動しているサークルです。今回、飯舘村に来て、農地が生き返る様子を見ることができ、うれしいです。まだまだ知られていない村の魅力を見つけて、広めていきたいと思っています。



藤田太郎さん  
「東大むら塾」の副代表。「いいたて村プロジェクト」のリーダーを務めます。

### 農業委員会からのお知らせ

農業委員会事務局 ☎0244-42-1629

農地を農地以外の目的(宅地、車庫、太陽光発電設備等)で使用する場合には、農地法に基づく「農地転用」の許可が必要です。地目が「田」「畑」以外に、「原野」などに農地転用する場合でも、現況が農地と判断されれば、農地転用の許可が必要になります。最近、相談件数が増えている太陽光発電設備を含め、農地転用を検討している場合は、事前に地元の農業委員会委員又は農業委員会事務局にご相談ください。